

大野城市民読書活動推進計画 施策進捗状況シート

P 計画の基本事項				
基本目標	1 あらゆる世代の読書の推進			
施策	(1) 乳幼児			
施策の方向性	親子で読書を楽しむことで、語彙力や想像力、集中力を養うとともに親子のコミュニケーションを深めます。そのために家庭での読書や読み聞かせの大切さについて保護者へ啓発を行い、親子での読書活動の推進を図ります。また、図書館及び地域貸出文庫等で、絵本の読み聞かせや貸出を行います。 共働き世帯が増加し、保護者と一緒に読書することが難しい乳幼児に対しても、保育所(園)・幼稚園等において読み聞かせを実施し、全ての子どもが本に出会う機会を提供します。			
主な取組	①絵本の紹介と保護者への啓発			
	②読み聞かせの実施			
	③絵本の貸出の実施			
成果指標	家庭での読み聞かせ実施率		策定時点	目標値(R9)
			86.7%	90.0%
D 令和6年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R6)	目標値(R6)
評価指標	「Babyぱらら」「こぱらら」の発行	年間発行回数	13回	12回
	ブックスタート事業	年間実施回数	144回	132回
	図書館での対象年齢に応じたおはなし会	年間実施回数	156回	85回
主な取組の実施状況 及び 今後の方針	①絵本の紹介と保護者への啓発		達成状況	
	◆「Babyぱらら」と「こぱらら」は、対象年齢に合わせた書評やイベント情報を掲載した冊子で、公共施設や学校などで配布されており、本との新しい出会いを提供するきっかけとなっている。次年度以降は、デザインの見直しやテーマの工夫を進め、新しい視点を取り入れることで、さらに魅力的な内容を目指していく。 ◆絵本特集コーナーでは、テーマ別と季節特集の2種類に分けて本を紹介した。この取り組みが貸出促進に繋がっているため、今後も引き続き実施していく。 ◆絵本ライブラリーや子育て講習会などを通じて、親子で絵本に触れる機会を提供した。今後も絵本への関心を一層高める活動を継続していく。		②期待どおり	
	②読み聞かせの推進		達成状況	
	◆ブックスタート事業では、絵本を通じて親子が触れ合うきっかけを提供しており、3歳児健診時のアンケートでは参加者の81%がその効果を実感している。今後は、読み聞かせの方法や絵本の配布方法を見直しながら、ブックスタートへの参加率向上を目指していく。 ◆まどかぴあ図書館では、赤ちゃん向けや幼児から小学生向けの		②期待どおり	

	おはなし会を開催し、年間で計2,781人が参加した。特に幼児を対象とした催しでは、参加が習慣化している親子の姿も見られることから、今後もおはなし会を継続して実施し、読書の楽しさを広く伝える機会を提供していく。 ◆「ぞうさんひろば」や「絵本ライブラリー」では、延べ約1万6千人が利用し、絵本を通じて親子の触れ合いの場を提供した。今後は参加者を増やすことを目指し、利用者が参加しやすい時間帯や参加方法を検討するとともに、「おおのじょう子育てナビ」（母子健康手帳アプリ）を活用して事業の周知に努めていく。 ◆子ども療育支援センターの集団療育では、保育士による読み聞かせや絵本の配架を通じて、子どもが本に関心を持つきっかけを提供している。これらの取り組みは良好な成果を上げており、今後も引き続き継続していく。 ◆全園で読み聞かせを実施するとともに、親子サロンやユूपレに読書環境を整備することで、子どもたちが本に触れる機会を提供できた。今後は、全園での読み聞かせを継続する。さらに、親子サロンやユूपレでは蔵書の更新を進めるとともに、整備された読書環境の存在を広く周知することに取り組んでいく。	
	③絵本の貸出の実施	達成状況
	◆キッズタイム事業を実施したが、「第18回図書館子どもまつり」は参加者数が低調に留まり、「図書館へよう！！2024年」では参加者がゼロという結果になった。この状況を改善するため、今後は開催日や時間帯といった実施条件を見直し、利用者が参加しやすい環境を整備していく。 ◆保育所（園）や幼稚園等での絵本の貸出について、現在、絵本貸出は全園の半数程度での実施に留まっている。家庭での読書習慣促進に向け、今後は全園での実施を促していく。 ◆絵本の整備は各園で計画的に進められている。今後は、読書しやすい環境の整備と図書の更新等を検討し、読書環境の充実を推進していく。	②期待どおり ※保育所等での絵本の貸出の実施が半数程度にとどまってはいるが、駐車場の事情等により絵本の貸出の実施が困難な箇所もあるという事情を考慮し、可能な保育所等で貸出を実施している現状を期待どおりとした。
C 評価		
推進委員会 評価	◆進捗状況は「達成状況」に記載のとおり。	
検討が 必要な事項	◆なし。	
A 改善		
改善結果		

P 計画の基本事項				
基本目標	1 あらゆる世代の読書の推進			
施策	(2) 小・中学生			
施策の方向性	小学生は読書のきっかけづくりや読書の習慣の基礎をつくる重要な時期です。中学生になると、感動や共感を得たり、将来に役立つ本等を選んで読んだりするようになる一方で、読む子どもと読まない子どもの二極化が著しくなります。そのため、学齢が上がっても読書に対する興味・関心を持ち続けることができるように、子どもの主体的な活動や子どもたち同士で読書意欲を高め合う取組を行います。 また、家庭、地域、図書館、学校等、社会全体で読書活動を広げていくことができるよう、保護者への啓発及び家庭・学校以外の身近な場所でも子どもたちが読書に親しめる取組を行います。			
主な取組	①本の紹介		②読み聞かせ等の推進	
	③読書時間の確保		④読書活動の促進	
	⑤読書目標の設定		⑥調べ学習の促進	
	⑦保護者への啓発			
成果指標			策定時点	目標値(R9)
	1 か月の読書率 ・ 小学2年生		94.2%	98.0%
	1 か月の読書率 ・ 小学5年生		93.7%	98.0%
	1 か月の読書率 ・ 中学2年生		70.7%	75.0%
D 令和6年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R6)	目標値(R6)
評価指標	小学生読書リーダーの養成	年間講座回数	基礎講座2回 交流会1回	基礎講座3回 交流会1回
	図書館利用案内とブックリストの配布	発行ジャンル数	4ジャンル	6ジャンル
	「自由研究ひらめきカード」の発行	発行ジャンル数	21ジャンル	21ジャンル
主な取組の実施状況 及び 今後の方針	①本の紹介		達成状況	
	◆各学校図書室の司書は、季節や行事、テーマに基づいたおすすめ本コーナーを設置し、掲示物や図書だよりで新刊の紹介を行った。また、委員会活動でのPOP作成など、子どもたちの興味を引く取り組みを継続して実施した。準備時間やスペースの制約により展示更新の頻度には課題が残るものの、今後もこれらの取り組みは継続していく。 ◆まどかぴあ図書館において、幼児から小学生までを対象とするおすすめ本紹介冊子「こぼらら」を年7回発行し、市内保育所・幼稚園・小学校へ配布した。今年度からは特別号に各小学校学校司書のおすすめ本を掲載するようになり、表紙には迷路などを載せて読書に関心がない子どもでも興味を持てるよう工夫している。今後は、来館が少ない高学年への関心を高める内容を検討していく。また、10代向けのおすすめ本の紹介や、まどかぴあ図書館のイベント情報などを掲載する「わいわいぱら		②期待どおり	

	ら」は年4回発行し、特別号では各中学校の司書に加え、筑紫中央高校の司書のおすすめ本も新たに掲載した。今後も中学生の興味を引く選書・テーマ設定で魅力的な紙面づくりに努めていく。	
	②読み聞かせ等の推進	達成状況
	◆小学校全10校とランドセルクラブ全10箇所は、地域やまどかぴあ図書館のボランティアと連携し、定期的に読み聞かせを実施した。中学校3校ではブックトークも行い、これらの読書支援活動は子どもたちの読書への関心を高めるきっかけとなっていることから、今後は学校の実情に合わせて継続的に取り組んでいく。 ◆まどかぴあ図書館では、赤ちゃん向け56回、幼児～小学生向け100回のおはなし会を実施し、計2,781人が参加したが、小学生の参加が少なかった。このため、「小学生タイム」の新設など工夫を凝らし、今後も事業を継続していく。 ◆地域貸出文庫28か所のうち、23か所で読み聞かせを実施した。未実施の地域では読み聞かせ担当者の不足が課題となっており、今後、読書ボランティアネットワークを通じてボランティアの拡充に努めていく。	②期待どおり
	③読書時間の確保	達成状況
	◆各学校は、読書タイムや図書室利用割の活用などで読書の機会を確保に努めた。しかし、授業増加や教職員の負担軽減に向けた取組の影響から学校での読書時間は減少しつつある。今後は、学校の実情に合わせ読書時間を継続して確保するとともに、「隙間時間」の図書室の利用を促していく。 ◆読書まつりや通帳の活用、校内放送など多様な方法で図書室利用促進に取り組み、普段利用しない児童生徒にも働きかけを行った。今後も学校の実情に応じた利用促進策を継続して行っていく。	②期待どおり
	④読書活動の促進	達成状況
	◆夏休み期間中、まどかぴあ図書館と学校図書室の司書の指導のもと、基礎講座や実践活動、交流会を実施し、読書リーダーによる活動を実施した。しかし、司書への負担増が課題となっており、今後は読書リーダーの養成に向けた講座の内容と日程を見直すものの、読み聞かせなど重要な読書活動の質は維持していく。 ◆赤ちゃんから小学2年生向けまで3種のブックリストと利用案内を配布し、まどかぴあ図書館を利用しない層にも情報を提供した。予算の都合で予定の一部のリストの作成を次年度に持ち越すとともに、未作成の小学3～6年生向けリストを順次作成を進めていく。	②期待どおり ※読書リーダー養成の講座回数は減っているが、随時内容を見直しが行われ、読書の推進という当初の目的は果たしていること、予算の範囲内でブックリストの発行はできていることを考慮し、期待どおりとした。

	◆学校において、「読書まつり」や本の紹介カード作成など、児童生徒が本に興味を持つよう創意工夫を凝らした啓発活動を持続的に行った。今後は、学校の実情に合わせ、活動時期を調整しながら取り組みを継続・充実させていく。 ◆まどかぴあ図書館において、図書館子どもまつり等のイベントを実施し、多くの参加者を得たが、開催時期がゴールデンウィークと重なった影響で、一部のイベントで予約キャンセルや来館者の減少という課題も見られた。今後はより参加しやすいイベントにするため、イベント全体の開催時期を調整し改善を図っていく。 ◆まどかぴあ図書館において地域貸出文庫への大型絵本貸出やプログラム相談を行うとともに、コミュニティセンターではR6年度から小学生向け読み聞かせ会を4地域で計5回実施した。地域貸出文庫への取組は需要があり、支援にもつながっているため今後も継続するとともに、コミュニティセンターにおいては参加者と満足度の向上に向け内容を検討しながら読み聞かせを継続していく。 ◆学校において、司書等の支援のもと、図書委員や読書リーダーが主体となり、読み聞かせなどを企画・運営し活動を充実させた。一方で活動時間の確保が難しい学校もあり、今後は学校の実情に合わせた継続を図るとともに、一部の生徒に負担が偏らないように各生徒の役割を明確化していく。 ◆学校司書により、教職員の依頼に応じた資料準備や児童生徒へのレファレンスを通じて読書を支援した。学校図書室にない資料はまどかぴあ図書館や他校からの貸借で補ったが、複数校で利用時期が重複し、資料が不足することもあったため、今後は市外図書館を含めた連携を検討していく。 ◆まどかぴあ図書館のヤングアダルトコーナーでは、中学生の興味を引く月替わり特集展示やInstagramでの新着本紹介で、読書への興味を持続させる支援を実施した。また、案内POPの設置でPR効果が上がった。今後はコミュニケーションボード設置など、YA世代の利用者と交流を深める企画を進めていく。	
	⑤読書目標の設定	達成状況
	◆読書目標未設定の学校が多かったが、貸出冊数の掲示や「読書貯金通帳」、多読者への表彰などを通じて読書量を可視化し、生徒の読書意欲を向上させる取り組みを実施した。しかし、クラス間に読書量の差が見られたため、今後はこれらの取り組みを継続するとともに、教職員からの積極的な声かけを促すことで、クラス全体の読書意欲向上を目指していく。	②期待どおり
	⑥調べ学習の促進	達成状況
	◆まどかぴあ図書館において遺跡や郷土料理など4種類のテ-	②期待どおり

	マを追加し、総数21種類となった自由研究ひらめきカードは、夏休み期間の活用に偏る状況であった。このため、内容の整理を進め、より手に取りやすいテーマを選定するとともに、他の期間での利用を促すため、目立つように掲示方法を工夫していく。 ◆学校図書室への新聞配架は小学校9校、中学校5校で実施されたが、インターネット普及の影響で利用する児童生徒は少なかった。このため、今後は生徒の興味を引く記事の掲示や図書だよりでの発信を強化する。さらに、新聞を学習資料として活用できるよう、教職員への周知徹底も図っていく。 ◆まどかぴあ図書館において、学校の貸出傾向を分析し、授業用資料の購入などで学校の調べ学習を支援したものの、同時期の複数校からの依頼により冊数調整が必要となることがあった。今後は、調べ学習に活用できる本を積極的に購入し、学校からの資料貸出要請に対応できる体制を整備していく。	
	⑦保護者への啓発	達成状況
	◆学校図書室において図書館だよりを発行し、児童生徒だけでなく保護者への啓発活動を実施した。しかし、授業参観やPTA活動といった、図書室の活動以外の機会を通じた保護者への働きかけは行えなかった。今後はこの課題を踏まえ、各学校の実情に応じた継続的な啓発活動に取り組んでいく。	②期待どおり
C 評価		
推進委員会 評価	◆進捗状況は「達成状況」に記載のとおり。	
検討が 必要な事項	◆カリキュラムを調整し、学校での読書の時間を確保できるよう、可能性を模索してほしい。 ◆本計画に子どもの読書推進を包含していることで、子どもの読書推進が弱まっていないか検証してほしい。	
A 改善		
改善結果		

P 計画の基本事項				
基本目標	1 あらゆる世代の読書の推進			
施策	(3) 高校生以上の学生			
施策の方向性	高校や大学等に通う学生時代は、将来や自分の人生について特に考えをめぐらせる時期であるとともに、読書から離れやすい時期でもあります。学生が読書に興味を持ち、必要な情報を得たり今後のライフスタイルの参考にできる本と出会えるよう、積極的な情報発信及び支援を行います。また、学生の読書率を高めるため、読書の魅力を共有できる仲間との出会いをつくる取組を行います。			
主な取組	①本の紹介			
	②読書活動の促進			
	③調べ学習の促進			
成果指標	1 か月の読書率	策定時点	目標値(R9)	
		77.8%	80.0%	
D 令和6年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R6)	目標値(R6)
評価指標	おすすめ本や新着図書情報の提供	年間発信回数	37回	28回
主な取組の実施状況 及び 今後の方針	①本の紹介		達成状況	
	◆まどかぴあ図書館においてInstagramで月1回の特集案内と新刊おすすめを計37回投稿した。これにより、YAコーナーの認知度が高まり、Instagramを活用する利用者に効果的に情報を届けられた。今後は、Instagramの掲載内容を紙で掲示し、来館者に対する周知も強化していく。 ◆まどかぴあ図書館において、「わいわいぱらら」を年5回、筑紫中央高校へ配布した。今年度から特別号で同校の司書によるおすすめ本を執筆してもらったことで、校内での認知度の向上に繋がった。今後は、高校生が興味を持つ選書やテーマ設定を行い、魅力的な紙面づくりに注力していく。		①効果が期待以上 ※目標回数を超えるおすすめ本や新着図書情報の提供を実施したことから、期待以上とした。	
	②読書活動の促進		達成状況	
	◆まどかぴあ図書館では6月から1月にかけてほぼ毎月、職場体験(13名)や見学(306名)などを受け入れた。特に施設見学の希望が多いため、今後は来館した児童生徒に対し、将来の図書館利用へと繋がるような魅力的な紹介を工夫して行っていく。 ◆まどかぴあ図書館において、筑紫中央高校への絵本の読み聞かせ講座など、出前講座を2回実施し、YAコーナーや情報誌「わいわいぱらら」のPRに繋がった。今後は、筑紫中央高校の生徒や職場体験の高校生にPOP作成を依頼するなど、筑紫中央高校とのコラボレーションの実現に向け調整していく。		②期待どおり	
	③調べ学習の促進		達成状況	
	◆筑紫中央高校からまどかぴあ図書館に、図書館司書を目指す人向けの本やチョコレートに関する絵本について問い合わせが		②期待どおり	

	あった。団体貸出はなかったものの、紹介した本は生徒の案内や授業で活用されたと認識する。今後は筑紫中央高校の利用促進を図りつつ、実用書など調べ学習に役立つ資料の選書を強化していく。	
C 評価		
推進委員会 評価	◆進捗状況は「達成状況」に記載のとおり。調べものの学習を実施する上で、学校で購入していない資料をまどかぴあ図書館で借りることができた。	
検討が 必要な事項	◆学校も含めて相互に資料を補完できないか検討してほしい。	
A 改善		
改善結果		

P 計画の基本事項				
基本目標	1 あらゆる世代の読書の推進			
施策	(4) 社会人			
施策の方向性	仕事や子育て等、ライフステージに応じて読書に親しめるよう、市民のニーズを把握し、様々な本との出会いの場を提供するとともに、日常生活における課題解決等に役立てられるよう支援します。			
主な取組	①読書活動の促進			
	②生涯学習の促進			
成果指標	読書が好きな人の割合	策定時点	目標値(R9)	
		79.6%	82.0%	
D 令和6年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R6)	目標値(R6)
評価指標	パスファインダーの発行	発行したジャンル数	-	-
主な取組の実施状況及び今後の方針	①読書活動の促進		達成状況	
	◆まどかぴあ図書館では、読書推進のため、お楽しみ袋を企画し、普段手に取らない本に触れる機会を提供した。また、工作イベント「紙のどうぶつえん」では筑紫中央高校からボランティアを募り、3名の参加を得た。今後も読書推進につながる企画を立案するとともに、ボランティア募集を継続してYA世代の参加を促していく。		②期待どおり	
	◆ふるさと館において、蔵書検索サービス（総閲覧数17,596回）と常駐スタッフにより図書利用をサポートした。また、大河ドラマ連動イベントなど（5,869名参加）を通じ、来館者に読書のきっかけを提供した。今後は、情報検索システムを更新するとともに、大野城市の歴史・文化のほか、特別展・講座・講演会などのテーマに応じた図書の周知を強化することで、図書の利用促進を図っていく。			
	②生涯学習の促進		達成状況	
◆まどかぴあ図書館において、パスファインダーの令和7年度春の発行を目指し、作成の方針とフォーマットを決定して作業を開始した。完成後はしらべものカウンター付近に設置する計画であり、準備を進めていく。		②期待どおり		
◆ふるさとラボにおいて、目加田文庫や郷土資料といった専門性の高い図書を配架し、常駐スタッフが市民の学習を支援した。貴重資料の特別利用による成果が論文として公表されるなど実績があり、今後も市民の歴史・文化学習への意欲向上に向けた取り組みを継続する。				
C 評価				
推進委員会評価	◆進捗状況は「達成状況」に記載のとおり。			

検討が 必要な事項	◆なし。
A 改善	
改善結果	

P 計画の基本事項				
基本目標	1 あらゆる世代の読書の推進			
施策	(5) 高齢者			
施策の方向性	高齢者が本に親しむため、利用しやすい環境づくりやサポートに取り組むとともに、読書を通じた学びやボランティア活動等への参加を促進する取組を行います。			
主な取組	①読書活動の促進			
	②生涯学習の促進			
成果指標	読書が好きな人の割合	策定時点	目標値(R9)	
		80.6%	83.0%	
D 令和6年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R6)	目標値(R6)
評価指標	はつらつセカンドライフコーナーの資料充実	年間受入冊数	162冊	150冊
主な取組の実施状況及び今後の方針	①読書活動の促進		達成状況	
	◆まどかぴあ図書館において、はつらつセカンドライフコーナーの資料の充実を進め、年間目標の150冊を達成した。また、需要の多さから、はつらつセカンドライフコーナーの資料を移動図書館車の恒常的な積載資料に加えた。利用者の実態に合わせ、今後は対象を60代以上に見直し、需要を意識しつつポジティブかつ「セカンドライフ」を考えられる資料を収集していく。 ◆市において、地域カフェで「おとなのための1分音読」を紹介し、高齢者の脳活性化と口の体操に貢献して好評を得た。この取り組みを他区にも展開するほか、まどかぴあ図書館において、アルツハイマー月間に特集コーナーを設置する。また、「シニア広報大野城」への記事掲載を通じてシニア層への読書活動啓発を始め、今後も連合会と協議し継続していく。 ◆ふるさと館において、蔵書検索サービス（総閲覧数17,596回）と常駐スタッフで図書へのアクセスを支援し、読書のきっかけをつくることのできた。今後は情報検索システムの更新で蔵書検索の充実を図るとともに、特別展などテーマに応じた図書の周知を強化していく。 ◆電子図書館の利用方法に関する講座は、集客の難しさから単独での実施は見送っている。しかし、まどかぴあ図書館の通常業務のなかでカード登録時やお尋ね時に案内を実施しており、今後は引き続き利用者からの問合せに対応していく。		①効果が期待以上 ※目標冊数を超えるはつらつセカンドライフコーナーの資料の充実を実施できたことから、期待以上とした。	
	②生涯学習の促進		達成状況	
	◆まどかぴあ図書館において、パスファインダーの令和7年度春の発行を目指し、作成の方針とフォーマットを決定して作業を開始した。完成後はしらべものカウンター付近に設置する計画であり、準備を進めていく。		②期待どおり	

	◆ふるさとラボにおいて、目加田文庫や郷土資料といった専門性の高い図書を配架し、常駐スタッフが市民の学習を支援した。貴重資料の特別利用による成果が論文として公表されるなど実績があり、今後も市民の歴史・文化学習への意欲向上に向けた取り組みを継続する。 ◆ここふるオレンジカフェにて読書ボランティアによる読み聞かせを実施し、読書を通じた学びの場を充実させた。また、アルツハイマー月間には図書館に認知症関連書籍の特集コーナーを設置し、高齢者の悩みを解消する取り組みを行った。今後は、ここふるオレンジカフェにて引き続き読み聞かせを行うとともに、幅広い世代の理解が進むよう図書館と連携した取り組みを進めていく。	
C 評価		
推進委員会 評価	◆進捗状況は「達成状況」に記載のとおり。	
検討が 必要な事項	◆なし。	
A 改善		
改善結果		

P 計画の基本事項				
基本目標	1 あらゆる世代の読書の推進			
施策	(6) 全世代共通			
施策の方向性	市民の読書意欲を高めるため、市と図書館が連携し、これまでの広報活動に加え、インターネット及びSNSを活用した情報発信に取り組み、市民の主体的な読書を支援していきます。			
主な取組	①読書活動の促進			
	②本の紹介			
	③情報発信の強化			
成果指標	市民の図書館の新規利用登録者数	策定時点	目標値(R9)	
		1,458人	1,800人	
D 令和6年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R6)	目標値(R6)
評価指標	レファレンスサービスの充実	データベース件数	126件	120件
	特集コーナーの充実	テーマ数	248件	155件
	ホームページやSNS等を活用した情報発信	年間発信回数	357回	90回
主な取組の実施状況及び今後の方針	①読書活動の促進		達成状況	
	◆まどかぴあ図書館において、レファレンスデータベースに新たに10件の事例を追加して充実を図った。今後は、活用状況の把握が困難なため、閲覧数の確認が可能な国立国会図書館レファレンス協同データベースへデータを移行する。移行後は、同データベースで事例を公開し、まどかぴあ図書館ホームページへのリンクの設置と広報を行っていく。		②期待どおり	
	◆まどかぴあ図書館において、恒例の「図書館へよう!!」は「ことば」をテーマに3,476人を集めたが、一部集客に苦戦したイベントがあった。今後は高額な講演会を隔年開催とする一方、職員の負担軽減のため広報の外注を再開するとともに、利用者の心を掴む魅力的なイベントを継続して企画していく。			
	◆まどかぴあ図書館において、絵本作家のさいとうしのぶ氏による絵本ライブを開催し、作家自身の読み聞かせという貴重な機会を提供したことで、多世代から高い評価を得た。しかし、予算の都合から、今後の講演会は隔年で実施していく。			
	◆令和7年度のまどかぴあ図書館のシステム更新に合わせ、読書手帳事業を実施するため、利用者が借りた本のタイトルなどを記録としてシールに印刷できるプリンターを導入する。			
主な取組の実施状況及び今後の方針	②本の紹介		達成状況	
	◆まどかぴあ図書館では、月替わりで担当者を決め、館内の複数箇所でテーマ別の特集コーナーを組んだ。他機関とのコラボ企画や、「自死防止」などの重いテーマの特集でも利用者の関心を引き付けた。今後は、関連書籍が少ないテーマでも、利用者		①効果が期待以上 ※目標を超えて特集コーナーを設置したことから、期待以上とした。	

	に本を提供する機会を逃さぬよう、小まめに内容を更新し、テーマを派生させるなどの工夫に努めていく。 ◆まどかぴあ図書館において、コミュニティセンターや学校などへのセット配本と選書支援、また館内特集コーナーでの多様な資料提供により、市内各所に読書場を広げた。今後も選書支援に向けた積極的な対応と、特集コーナーの活用を継続していく。 ◆まどかぴあ図書館において、令和7年3月より、おとな向けブックリスト「認知症を知る。」の配布を開始した。今後は、利用者の選書を手助けできるように、検討したテーマに基づきブックリストの種類を増やしていく。	
	③情報発信の強化	達成状況
	◆まどかぴあ図書館において、ホームページ（188回）とインスタグラム（169回）を活用し、利用案内やイベント情報の発信に努めた。今後は、紙の広報物に二次元バーコードを導入するとともに、動画を増やすなど、利用者により分かりやすい広報に向けた工夫を行っていく。 ◆まどかぴあ図書館において、年6回、「パララ」を1,500部発行し、書評や新サービスなどの情報を周知した。パララで紹介した資料の予約が増えるなど、利用促進に繋がっているため、今後も多くの人に手に取ってもらえるよう、内容や見出しの工夫を継続していく。 ◆まどかぴあ図書館において、まどかぴあ情報誌「アテナ」に毎月イベント情報を掲載するとともに、デジタルサイネージも活用して情報を発信した。アテナの記事をきっかけにイベントの問い合わせが増えるなどの効果が確認できたため、今後も利用者の目を引く、わかりやすい記事で広報を継続していく。 ◆まどかぴあ図書館において、市と連携し、同和推進強化月間など年間6回の特集コーナーを設置して関連資料を発信し、昨年度より設置回数を増加させた。これにより利用者への訴求効果が高まったことから、今後も引き続き市と連携し情報を発信していく。 ◆市報で「わたしと本」をテーマに、市に関わりのある高校生や施設館長などに心に残る本を計3回執筆してもらい、市民の読書への関心を高める機会とした。今後も「わたしと本」の掲載を継続するとともに、紹介された本をまどかぴあ図書館でPRし、読書推進に繋げていく。	①効果が期待以上 ※目標を超えてホームページやSNS等を活用して情報を発信したことから、期待以上とした。
C 評価		
推進委員会 評価	◆進捗状況は「達成状況」に記載のとおり。	
検討が	◆なし。	

必要な事項	
A 改善	
改善結果	

P 計画の基本事項				
基本目標	2 読書に親しむ環境づくり			
施策	(1) 身近な読書活動の場の充実			
施策の方向性	これまで読書に興味のなかった市民や図書館を利用できなかった市民も、気軽に読書を楽しめる環境の整備に取り組みます。そのため、図書館だけでなく市内の諸施設との連携を深め、地域の読書の場のあり方を見直すとともに、それぞれの魅力を高め、効果的な読書推進を図ります。			
主な取組	①図書館の充実			
	②学校図書室の充実			
	③地域貸出文庫の充実			
	④コミュニティセンターのコーナー充実			
	⑤気軽に読書・調べ学習ができる場の充実			
	⑥移動図書館の活用促進			
	⑦本を届けるサービスの実施			
	⑧イベントの実施			
	⑨電子図書館サービスの導入・運用			
成果指標	市民の図書館の新規利用登録者数	策定時点	目標値(R9)	
		1,458人	1,800人	
D 令和6年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R6)	目標値(R6)
評価指標	地域貸出文庫の図書資料の充実	年間購入冊数	1,629冊	1,400冊
	コミュニティセンターの図書資料の充実	年間新規蔵書数	1,230冊	100冊
	移動図書館のイベント等への出張	年間出張回数	1回	1回
主な取組の実施状況 及び 今後の方針	①図書館の充実		達成状況	
	◆まどかぴあ図書館において、誰もが気持ちよく利用できるよう、利用時間やマナーなどの基本情報をまとめた掲示物を、初めての来館者にもわかりやすいよう作成した。今後は、来館者が一目で情報を把握できるよう、掲示物を継続して改善していく。		②期待どおり	
	②学校図書室の充実		達成状況	
	◆学校図書室には児童生徒が自由に使える検索用パソコンがない。貸出・返却が多い時間帯は司書や図書委員による支援が難しいため、今後は児童生徒用タブレットに検索システムを導入し、利用環境の整備を進めていく。		②期待どおり	
	③地域貸出文庫の充実		達成状況	
	◆まどかぴあ図書館において、年に2度の図書交換会と3度のリサイクル本提供を実施し、文庫の団体貸出や除籍図書の利用を促進した。しかし、利用が一部の文庫に固定化する傾向が見られ、文庫総会で直接案内しても新規参加に繋がらないなど、効果的なPRが課題となっている。今後は全ての文庫を対象に、団体貸		①効果が期待以上 ※目標を超える図書資料の充実を実施したことから、期待以上とした。	

	出や除籍図書の利用を促進する働きかけを強化するとともに、文庫活動を行うボランティア支援体制も強化していく。 ◆各公民館の地域貸出文庫に関するホームページを公開しており、今後も継続していく。 ◆持続可能な地域貸出文庫の実現のため、地域貸出文庫の管理・対応業務を指定管理者の業務に追加している。	
	④コミュニティセンターのコーナー充実 ◆コミュニティセンターにおいて、寄付やリサイクル本などを活用し、新たに1,230冊の図書を追加した。また、R6年度からはまどかぴあ図書館の団体貸出本閲覧コーナーを新設して読書推進に貢献しており、今後も図書コーナーの魅力向上とまどかぴあ図書館との連携を継続していく。 ◆コミュニティセンターにおいて、計20回の図書コーナーの周知を行った。新たにアプリ風HP「すまっぽん」を活用した点は評価できたが、情報発信に用いるツールが限られている課題が残った。今後は、各コミ通信やコミセンHP、広報誌への掲載など、多様な方法を用いて図書コーナーを周知していく。 ◆コミュニティセンターにおいて、まどかぴあ図書館のイベントポスターを計48回掲示して連携を行った。コミュニティセンターでまどかぴあ図書館に関する情報掲示協力は行ったが、それ以外の連携には課題が残っており、今後はコミュニティセンター側の情報もまどかぴあ図書館に掲示依頼するなど、協力体制を相互に強化していく。	達成状況 ①効果が期待以上 ※目標を超える図書資料の充実を実施したことから、期待以上とした。
	⑤気軽に読書・調べ学習ができる場の充実 ◆心のふるさと館のふるさとラボにおいて、歴史・文化に関する図書を配架するとともに、複製資料を展示した。読書目的でない利用者も図書に関心を持つきっかけを提供し、読書への関心を向上させた。引き続きラボを開放し、誰もが気軽に図書を手にとれる場を提供していく。 ◆幼稚園・保育所、学校、親子サロン、ユープレの各施設で、利用者が常に本に触れられる環境を提供できた。今後は、図書の更新を進めることで読書環境のさらなる充実を図るとともに、利用者への周知を進めていく。 ◆大町公園とふるかわ公園の文庫は、利用者の約8割が満足している。両公園は管理者が近くにいるため維持できているが、他公園への文庫の拡充は困難である。引き続き、両公園において子どもだけでなく多世代のニーズに応じた本を揃え、来園者に楽しんでもらえるよう運用していく。 ◆高架下多目的施設への読書スペース設置は、R6年度において設計・建設段階にあるため未着手である。作業は順調に進んでおり、施設整備が完了した後、速やかに読書スペースを設置でき	達成状況 ②期待どおり

	るよう、今後も準備に取り組んでいく。	
	⑥移動図書館の活用促進	達成状況
	◆まどかぴあ図書館において、移動図書館のイベント出張を2回実施したが、天候不良により利用は低調だった。まどかぴあ図書館から積極的に提案し日程調整はできたものの、今後は時期とPR方法を見直す必要がある。いこいの森中央公園に加え、各コミュニティセンターへの出張も調整していく。 ◆移動図書館車の巡回ステーションについて、南ヶ丘2区公民館から南コミュニティセンターへ場所を変更した。この変更後、利用減少が懸念されたが、貸出冊数・利用人数ともに増加した。また、次年度に向け、利用が増えた老松神社の運行時間延長や、熱中症対策としての7・8月の全ステーション30分運行への見直しを実施した。今後も、各ステーションの利用状況を注視し、巡回場所や運行時間の見直しを検討していく。	②期待どおり
	⑦本を届けるサービスの実施	達成状況
	◆まどかぴあ図書館の予約本の郵送サービスは、郵送代金が全額利用者負担となっている影響から、開始以来一度も利用されていない。今後はPR方法を検討し、利用が増えるよう利用促進に努めていく。 ◆まどかぴあ図書館の予約本受け取りについて、R7年度のまどかぴあ図書館のシステム更新に合わせ、コミュニティセンターでの受け取りを開始する。 ◆市内全てのコミュニティセンターで運用されている返却ポストは、昨年度より利用が増加し、特にまどかぴあ図書館から遠い南コミの利用が最も多かった。この増加は利便性が周知されたためと見られ、返却ポストは地域に必要とされるものである。R7年度からは駅にもポストを設置し、まどかぴあ図書館の利便性をさらに向上させていく。	②期待どおり
	⑧イベントの実施	達成状況
	◆まどかぴあ図書館において、ボランティアと連携し、赤ちゃん向けから小学生向けのおはなし会やブックトークなどのイベントを実施したが、参加者の少ないブックトークについては対象年齢の見直しを慎重に検討していく。コミュニティセンターにおいて、読み聞かせ会に合わせたロビーコンサートを実施し、集客に効果があった。また、コミュニティセンターへのまどかぴあ図書館による貸出も読書への関心向上に繋がった。今後はイベント周知方法を見直して参加者増加を図るとともに、読書週間等に合わせた「おススメ本コーナー」の設置など、地域での読書啓発イベントを継続的に充実させていく。	②期待どおり
	⑨電子図書館サービスの導入・運用	達成状況

	◆電子図書館の登録者数は前年より減少したが、広報記事掲載で夏休み後も増加した。しかし、今後の利用統計は伸び悩むと予想されるため、他自治体を参考に、サイトの見え方や選書コンテンツを見直し、運用改善に取り組んでいく。 ◆市の働きかけにより、学校における電子図書館の利用は大幅に増加したが、あまり活用できていない学校もあった。今後も魅力的な選書に努めるとともに、児童生徒と教員への周知徹底を図るため、年度初めには事業周知を行っていく。	②期待どおり
C 評価		
推進委員会 評価	◆進捗状況は「達成状況」に記載のとおり。	
検討が 必要な事項	◆なし。	
A 改善		
改善結果		

P 計画の基本事項				
基本目標	2 読書に親しむ環境づくり			
施策	(2) 資料の充実と効率的な活用			
施策の方向性	「大野城まどかぴあ図書館資料収集方針」及び「大野城まどかぴあ図書館資料選定基準」に基づき、各世代のニーズに応じた図書館の資料の充実を図ります。 また、図書館のリサイクル本や団体貸出を活用し、市内各施設の資料の充実に取り組みます。			
主な取組	①資料の充実			
	②団体貸出の促進			
	③図書の再活用			
成果指標	図書館の貸出冊数 (※電子図書館の貸出を含む。)	策定時点	目標値(R9)	
		783,794冊	793,000冊	
D 令和6年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R6)	目標値(R6)
評価指標	図書館でのリクエスト受付	リクエストに対して提供した割合	89.5%	90%以上
主な取組の実施状況 及び 今後の方針	①資料の充実		達成状況	
	◆まどかぴあ図書館において、利用者のリクエストに対して、購入するほか、出版年が古いものや専門性が高い資料については、県内の図書館、大学、県外の図書館からの借受によって対応し、結果として約90%の高い提供率を維持した。引き続き、利用者からの要望には可能な限り応じつつ、収集基準に基づいた資料の選定と提供に努めていく。		②期待どおり	
	◆学校図書室で児童生徒や教職員から図書のリクエストを募ったが、予算上の制約で全てを購入できなかった。今後もリクエスト受付は継続しつつ、予算の限りから、資料の充実を図るためまどかぴあ図書館の団体貸出を積極的に利用し、資料の充実に努めていく。			
	◆電子図書館では、ライセンスの貸出回数や期限といった条件を考慮してコンテンツを選書した。今後も引き続き、魅力ある資料を選定し、利用者の増加に繋げていく。			
	◆広報誌「大野城」や「市制施行50周年記念市勢要覧」を電子図書館で提供した。ふるさと館でも発掘調査報告書9件の電子化を実施し、「大野城市の文化財」55集や紀要・年報をHPで公開することで学習支援に貢献した。今後は、電子化した発掘調査報告書の公開を進めるとともに、令和7年度より寄贈された竹田家文書の本格的な整理作業に着手し、HPでの公開に向けた準備を進めていく。			
	②団体貸出の促進		達成状況	
	◆まどかぴあ図書館からの団体貸出の新規・更新団体は増えた		②期待どおり	

	が、利用規則の周知不足により、貸出や備品の利用時に混乱が多発した。今後は規則を整理して各団体への周知を徹底すると共に、ニーズを把握し、資料や備品の充実を進め、適切な時期に貸出を実施していく。	
	③図書の再活用	達成状況
	◆まどかぴあ図書館では、除籍資料の優先配布と市民への配布を年3回実施した。優先配布の参加団体が固定化しているため、今後はPR方法を検討する必要がある。除籍図書の有効利用を図るため、この活動を継続して行くとともに、要望に応じて企業や団体への提供も検討していく。	②期待どおり
C 評価		
推進委員会 評価	◆進捗状況は「達成状況」に記載のとおり。	
検討が 必要な事項	◆なし。	
A 改善		
改善結果		

P 計画の基本事項				
基本目標	2 読書に親しむ環境づくり			
施策	(3) 読書バリアフリーの推進			
施策の方向性	誰もが利用しやすい図書館を目指し、館内設備やバリアフリー資料等の充実、及び支援が必要な人に対するバリアフリーサービス、多文化サービスの拡充を図ります。また、より多くの人のサービス利用を促進するため、周知の強化を図るとともに、サービスを提供・支援する人のスキル向上に取り組んでいきます。			
主な取組	①館内設備の充実			
	②バリアフリー資料の充実			
	③バリアフリーサービスの充実			
	④多文化サービスの充実			
成果指標	バリアフリーサービスの認知度	策定時点	目標値(R9)	
		17.0%	20.0%	
D 令和6年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R6)	目標値(R6)
評価指標	バリアフリー資料の充実	バリアフリー資料の蔵書数	2,641冊	2,030冊
	外国語コーナーの充実	外国語資料の蔵書数	2,013冊	1,940冊
主な取組の実施状況及び今後の方針	①館内設備の充実		達成状況	
	◆まどかぴあ図書館の棚の一部に傾斜板を設置し、利用者が立ったままでも本の背表紙を見やすい環境を整備した。今後は、利用者が目的の本を探しやすいように見出しの変更を検討していく。 ◆まどかぴあ図書館では、R7年度のシステム更新にともない、利用者の操作性を高めるため、マウスやキーボードに加え、画面タッチでの操作も可能な新しい図書検索機を導入する。 ◆まどかぴあ図書館では、バリアフリー機器の充実のため、案内カウンターにルーペと助聴器を設置した。情報誌『パララ』を通じて拡大読書器などの機器を紹介したが、助聴器と比べて利用が少なかった。そのため、拡大読書器の認知度を高め、利用促進を図るべく、今後も積極的に周知していく。		②期待どおり	
	②バリアフリー資料の充実		達成状況	
	◆まどかぴあ図書館では、バリアフリー資料を積極的に収集し、大活字本について男性向けのものや女性向けのものとのバランスを意識して購入した。LLブックや「てんじつき さわるえほん」も収集し、設置場所も工夫したことで、障害の有無に関わらず幅広い年代に利用された。今後は、資料を増やすとともに、展示スペースを改善し、資料をより分かりやすく展示できるよう工夫していく。 ◆まどかぴあ図書館では、利用者がサービスについて自由に情報		①効果が期待以上 ※目標を超える図書資料の充実を実施したことから、期待以上とした。	

	を得られるよう、県立図書館のバリアフリーサービスと大野城市作成の障がい者福祉のしおり「はばたき」を館内に設置した。今後は、これらのサービスが関係者により広く知られるよう、積極的なPR活動を展開していく。	
	③バリアフリーサービスの充実	達成状況
	◆まどかぴあ図書館において、対面朗読サービスで希望者が出たが、後にキャンセルとなったが、この際の準備記録を基に実施マニュアルを改訂した。今後は新たな希望があった際に迅速に対応するため、職員間で拡大読書器やiPadなどの機器の使用法を復習しておく。 ◆市において、視覚障がいのある人への読書支援として、「視覚障がい者用拡大読書器」を3件給付した。今後、より多くの対象者が利用できるよう周知を徹底し、読書支援ツールの給付を引き続き行っていく。 ◆手話通訳者の図書館派遣サービスは、利用者の希望に応じてまどかぴあ図書館が大野城市役所所属の手話通訳士に同席を依頼し実施する。このサービスを関係者に広く認知してもらうため、今後は効果的なPR方法を検討していく。 ◆まどかぴあ図書館において利用されていないバリアフリーサービスが多く、点字ボランティア代表者会議に出席し周知を行った。今後はボランティア団体への周知を徹底し、利用者へサービスを紹介してもらえ環境を整えていく。 ◆認知症予防に関心を持つ人を対象とする「ここふるオレンジカフェ」において、読書ボランティアによる読み聞かせを実施した。今後も活動を支える読書ボランティアの紹介も続けていく。 ◆まどかぴあ図書館のバリアフリーサービスについて、各種障がい者手帳の交付時などに障がい福祉のしおりにより周知した。今後も引き続き、障がいのある人へ情報が届くよう、周知活動に取り組んでいく。	②期待どおり
	④多文化サービスの充実	達成状況
	◆まどかぴあ図書館では、言語別に古い資料を見直して、コミックや名作の対訳本を積極的に選書した。また、洋書の絵本リスト作成と書誌情報の更新により検索を容易にしたが、外国語絵本と児童書の棚の配置の分かりにくさが課題として残った。今後は資料受入を継続しつつ、本の配置を改善していく。 ◆まどかぴあ図書館では、英・中・韓国語の3言語で利用案内を作成しカウンターに配置した。配布機会は少なかったが、外国籍の利用者への説明に役立った。今後も利用者の要望に応じて別言語の案内を迅速に提供できるよう、環境の整備を進めていく。	②期待どおり

	◆まどかぴあ図書館において、コミュニケーションボードから「パスポート」の文言を削除するなどの修正を行った。今後もボードの内容に修正が必要な箇所がないか定期的に確認していく。	
C 評価		
推進委員会 評価	◆進捗状況は「達成状況」に記載のとおり。	
検討が 必要な事項	◆なし。	
A 改善		
改善結果		

P 計画の基本事項				
基本目標	3 読書ネットワークの充実			
施策	(1) まどかぴあを中心としたネットワークの推進			
施策の方向性	本の専門家である司書へ誰もが気軽に相談できる窓口を設置し、市民及び関係機関へ広く周知を行います。また、市民の読書活動を推進するために、ICTの活用等、図書館と学校、地域の連携のあり方を検討していきます。			
主な取組	①相談窓口の充実			
	②時代に即した連携のあり方の検討			
成果指標	相談窓口・レファレンス 利用者満足度	策定時点	目標値(R9)	
		-	80.0%	
D 令和6年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R6)	目標値(R6)
評価指標	相談窓口及びレファレンスサービスの活用促進	年間受付件数	8,484件	6,500件
主な取組の実施状況 及び 今後の方針	①相談窓口の充実		達成状況	
	◆まどかぴあ図書館では、レファレンスサービスの活用促進のため、学校やボランティア団体などからの依頼で出前講座を実施し、延べ35人を派遣した。団体向け文書で案内した結果、認知度が向上しているため、今後も相談窓口の利用促進と団体への周知を行っていく。 ◆まどかぴあ図書館では、気軽に相談できる体制の強化のため、土日でも平日も可能な限り児童カウンターに職員を配置し読書相談に対応した。しかし、子どもたちが気軽に相談できていないように感じられるため、今後は掲示物や積極的な声かけで児童カウンターの利用を促していく。 ◆まどかぴあ図書館では、親子サロンへの団体貸出と、市内施設へのリサイクル本提供を実施した。併せて、就学前の乳幼児とその保護者へ、絵本の紹介等を行い、普段来館しない層へのまどかぴあ図書館のPRはできたが、親子サロンの環境整備やリサイクル本提供における参加団体の固定化が課題として残った。今後もこれらの活動を継続していく。 ◆まどかぴあ図書館では、施設等へ年代別情報誌や団体向け利用案内を送付した結果、団体貸出の登録・更新が計84団体（新規17団体）に達した。今後も市内公共団体や福祉団体などにも引き続き利用案内を送付し、読書相談等の利用増加を図っていく。 ◆まどかぴあ図書館では、施設管理者等に向け、上筒井文庫や下大利小学校司書を対象に、選書や本の装備など実務的な内容で2件の出前講座を実施し、実践的な指導を行った。今後も学校や地域貸出文庫などと連携を強化し、読書活動を積極的に推進		①効果が期待以上 ※目標を超えるレファレンスサービスの受付があったことから、期待以上とした。	

	できる体制を支援していく。	
	②時代に即した連携のあり方の検討	達成状況
	◆まどかぴあ図書館と学校図書室の連携では、団体貸出に向けたやりとりを安定して行えた。R6ワーキングチームではまどかぴあ図書館と学校の図書システム連携について協議したが、現時点で双方に必要性が感じられなかった。今後は児童生徒用タブレットに蔵書検索システムを導入する方向で検討を進めるとともに、R7年度からは一部の学校図書室でのまどかぴあ図書館の予約本の受け取りサービスを開始する予定である。	②期待どおり
C 評価		
推進委員会 評価	◆進捗状況は「達成状況」に記載のとおり。	
検討が 必要な事項	◆なし。	
A 改善		
改善結果		

P 計画の基本事項				
基本目標	3 読書ネットワークの充実			
施策	(2) 読書活動を支える人の活動の活性化			
施策の方向性	学校及び保育所(園)・幼稚園等において子どもたちが、充実した読書活動が行えるように、活動を支える人材のスキルの向上を図ります。 また、読書ボランティアについては、人材の発掘及び育成を継続するとともに、活動の場の創出のほか、活動が縮小している団体等を支援する体制づくりを行い、ボランティアの活動の活性化に取り組みます。			
主な取組	①図書館司書のスキルアップ			
	②学校司書活動の充実			
	③保育士・幼稚園教諭等のスキルアップ支援			
	④読書ボランティアの育成			
	⑤読書ボランティア人材の発掘			
	⑥読書ボランティア活動の活性化			
	⑦読書ボランティアの交流の場と協力体制づくり			
成果指標	各種読書ボランティア講座の実施	策定時点	目標値(R9)	
		520人	530人	
D 令和6年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R6)	目標値(R6)
評価指標	各種読書ボランティア講座の実施	年間実施回数	10回	6回
	読書ボランティア情報交換会の実施	年間実施回数	3回	1回
主な取組の実施状況及び今後の方針	①図書館司書のスキルアップ		達成状況	
	◆まどかぴあ図書館では、スキル向上を図るため、職員にレファレンスやバリアフリー、子ども読書に関する外部研修に参加させた。今後も引き続き積極的な参加を促し、職員のスキルアップを図っていく。		②期待どおり	
	②学校司書活動の充実		達成状況	
	◆学校司書を対象に連携部会を2回、図書司書研修を3回、新規採用向けのシステム操作研修を2回実施した。研修の回数を増やしてほしいという要望があるため、今後は状況に応じて開催を調整していく。 ◆学校司書への本計画周知のため、連携部会で概要説明を行った。学校司書が入れ替わるため、今後も年度初めに本計画の周知を継続していく。 ◆学校司書や司書教諭の外部研修参加を促進するため、県からの研修に関する情報をC4thで随時通知している。今後も参加を促すため、研修や講座の情報を継続して提供していく。 ◆図書館・小中学校図書室連携部会は、年2回実施され、市役所との連携時間を増やしたことで業務改善に結びついた。しかし、協議内容が希薄化し、大半が学校図書司書間の意見交換の		②期待どおり	

	場となっている点が課題であり、今後もまどかぴあ図書館、市役所、学校の情報交換の時間は設けつつ、部会の在り方を検討していく。 ◆まどかぴあ図書館では、学校ボランティアと連携するため、まどかぴあ図書館主催の講座案内送付や選書・団体貸出などの支援、出張おはなし会などを実施した。しかし、各校の活動実態が異なるため、講座の参加者数や団体貸出の利用に偏りが見られた。今後も学校ボランティアに対し、必要な支援等を継続していく。	
	③保育士・幼稚園教諭等のスキルアップ支援	達成状況
	◆市から研修に関する情報提供はしたが、他の研修を優先したことや、人員配置の都合上、研修に参加する余裕がなかったことなどが理由となり、ほとんどの園で保育士等の参加は進まなかった。一部で研修不要とする意見もある中、今後はオンラインや動画視聴など、より参加しやすい方法を検討し、積極的な研修への参加を促していく。	②期待どおり
	④読書ボランティアの育成	達成状況
	◆全2回の読み聞かせボランティア入門講座（土曜含む）、全3回のスキルアップ講座（絵本の組み合わせ、小道具、赤ちゃん入門）、語りの講座の計3種類を実施した。入門講座は土曜実施も功を奏して参加者が多く、スキルアップ講座も受講者の満足度が高かった。今後の方針として、入門講座は実施曜日を引き続き検討しつつ継続して実施していく。スキルアップ講座は、ニーズを調査しながら多様な内容を実施していく。 ◆まどかぴあ図書館では、実技指導やボランティア同士の仲間作りといった側面を重視し、まどかぴあ図書館の各種研修（3種類、全10回）を全て対面方式で実施した。一方で、実際に集まっての意見交換を必要としない新人の学校図書司書（2名）向けのシステム操作研修は、オンライン形式で2回実施した。今後は、読み聞かせボランティア向けの講座など、実技やグループワークを含む講座についても、オンラインに向く講座内容を検討していく。 ◆まどかぴあ図書館では、講座やイベントの情報を市内小中学校、公民館、コミュニティセンターへチラシで送るとともに、ホームページでも周知した。イベントの際には所属ボランティアにも案内しており、この情報提供が継続的なイベント等への参加に繋がった。今後も同様の周知活動を続けていく。	①効果が期待以上 ※目標を超え各種読書ボランティア講座を実施したことから、期待以上とした。
	⑤読書ボランティア人材の発掘	達成状況
	◆読書ボランティアを募集するため、読み聞かせボランティア入門講座で直接参加を呼びかけるとともに、市のホームページに募集情報を掲載し、周知活動を展開した。今後もこれらの活動	②期待どおり

	を継続していくとともに、R7年度からは読書ボランティアネットワークを設立し、読書ボランティア全体で人材の発掘に向けた取り組みについて協議できる体制を整える。 ◆まどかぴあ図書館では、読書ボランティアを確保するため、入門講座を開催するとともに、講座の案内を全戸配布される情報誌「アテナ」に載せることで、普段まどかぴあ図書館を利用しない市民層にも情報を届け、講座の受講とボランティア活動への参加を幅広く促した。今後はSNSなどの新たな媒体も活用し、人員の確保に努めていく。	
	⑥読書ボランティア活動の活性化	達成状況
	◆読書ボランティアの募集情報「読書ボランティアへのおさそい」により読書ボランティア団体を周知するとともに、読書ボランティアを紹介し、コミュニティセンターでの絵本のおはなし会を開催した。今後も市に登録されている読書ボランティアの紹介を継続していく。 ◆各読書ボランティア団体が抱える課題に対応し、全体での問題解決を目的として、相互支援と連携体制を築くためのネットワーク設立に向け、ワークショップ等を開催し準備を進めた。今後はこのネットワークを通じて、各団体の成功事例や最新の活動情報を共有し、協力体制を強化しながら課題に対処していく。 ◆読み聞かせ等を実施した読書ボランティアに対し、まどぶらポイントを付与した。今後もこの取り組みを継続していく。 ◆読書ボランティアが参加するイベントの場において、本計画を周知した。今後も継続的に本計画を周知していく。	②期待どおり
	⑦読書ボランティアの交流の場と協力体制づくり	達成状況
	◆読書ボランティアネットワーク設立のため、市役所が主催し、7月と9月にワークショップを実施した。これは、ボランティア自身の意見を直接聴取し、目指すべきネットワーク像を具体的に検討するためであった。その後の2月の報告会を経て準備を整え、ネットワークは令和7年度に設立する。	②期待どおり
C 評価		
推進委員会 評価	◆進捗状況は「達成状況」に記載のとおり。	
検討が 必要な事項	◆なし。	
A 改善		
改善結果		

P 計画の基本事項				
基本目標	3 読書ネットワークの充実			
施策	(3) 市民交流の創出			
施策の方向性	読書を通じて、人と人との交流が生まれる取組を実施していきます。			
主な取組	①市民が参加できるイベント等の実施			
成果指標	イベントの参加者数	策定時点	目標値(R9)	
		4,828人	6,320人	
D 令和6年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R6)	目標値(R6)
評価指標	イベントの実施	年間実施回数	172回	87回
主な取組の実施状況 及び 今後の方針	①市民が参加できるイベント等の実施		達成状況	
	◆まどかぴあ図書館では、定例のおはなし会をはじめ、夏休みイベントなど様々な催しを実施したが、集客の都合上、企画が子ども向けに偏りがちであった。そのため、今後は大人も参加しやすいイベントを検討していく。		①効果が期待以上 ※目標を超えてイベントを実施したことから、期待以上とした。	
	◆まどかぴあ図書館は心のふるさと館と連携し、NHK大河ドラマに合わせた『源氏物語絵巻』の周遊イベントなどを実施した。また、読書週間の前後の期間において、まどかぴあ図書館の利用者を対象にここふるショップでドリンク50円割引を実施した。今後も連携強化を図り読書を通じた賑わい創出を目指していく。コミュニティセンターでは、子ども向けの読み聞かせイベントを実施したほか、国際交流協会との協働による外国人ボランティアの催しや、クリーンみかさとのペットボトルキャップ回収を通じた絵本寄贈プロジェクトが地域住民の高い関心と協力のもと成功を収めた。これらの実績を踏まえ、読み聞かせや絵本寄贈プロジェクトを継続しつつ、今後は関係各所や団体とのさらなるタイアップ企画を検討していく。			
C 評価				
推進委員会 評価	◆進捗状況は「達成状況」に記載のとおり。			
検討が 必要な事項	◆なし。			
A 改善				
改善結果				